

# 核融合アーカイブ室

井口 春和

## アーカイブズがなぜ必要なの？

皆さんは「アーカイブズ」と聞くと、『NHKアーカイブズ』の映像記録を思い浮かべるかもしれませんが、アーカイブズの範囲はもっと広く、国や地方の行政機関あるいは様々な組織が固有の歴史資料として所蔵するもの一般を指し、その中心は文書資料です。一方、アーカイブズには資料そのものだけでなく、それを保存・活用する施設という意味もあります。その語源はギリシャ語のアルケイオン(αρχειον/公会堂のような公共建築)に遡ることができ、まさに、人類文明の歴史とともにあるのです。

公的な組織には、国民から委ねられた使命があります。アーカイブズには、単に歴史資料としての意義だけでなく、それぞれの組織の活動について社会的な説明責任を果たすための証拠資料という重要な役割があります。核融合研究のような長期に亘る大型プロジェクト研究では、将来に向けた研究指針を得るためにも、研究の歴史を考察し評価することが不可欠です。それは、国民の理解と支持を得るための必要条件と言って良いでしょう。

アーカイブズに対する国民の理解の進んでいる米国では、国家の歴史資料を保存する場所としてNARA(The U.S. National Archives and Record Administration)があり、2,500人ものスタッフを抱えて活動しています。日本の国立公文書館の職員数は数十名に過ぎず、両国の歴史文書に対する認識の違いが現れています。スタッフの数ではお隣の中国(560人)や韓国(300人)に比べても著しく見劣りがします。歴史資料を保存する施設には、文書館や歴史館など、組織ごとに様々な名前が付けられています。核融合科学研究所では、「核融合アーカイブ室」という名称で、2005年に組織として正式に発足しました。

## どんな活動をしているの？

核融合アーカイブ室にとって、核融合科学研究所の設立に関わる歴史資料を収集・保存することは重要な使命ですが、当研究所が日本の大学関係の核融合研究における中枢機関であることから、半世紀に

亘る日本の核融合研究全体の歴史記録を残すことも果たすべき役割と考えています。そのため、2名のアーカイブ室員(室長/併任、主任支援員)および3名のアーカイブ室協力員(名誉教授等の共同研究者)だけでなく、全国の共同研究者数十名の協力を得て様々な活動を行っています。関連する2012年度の共同研究は、資料の収集と歴史分析とを合わせ、12のテーマに及んでいます。

ここに至る歴史について、簡単に触れておきます。1977年、名古屋大学プラズマ研究所に「核融合研究企画情報センター」が設置されたとき、初代センター長に就任した理学部の早川幸男教授(後に名古屋大学長)は、「自分たちの研究の歴史の記録を科学史家だけにゆだねるのではなく、研究者自らも関わるべきである」と考え、同センター職員などの協力を得て、核融合研究黎明期の資料を整理するとともに、誰もが参照できるような資料カタログ冊子を作成しました。ちょうど新しい大学共同利用機関を設立するための活発な議論が交わされていた時期でした。早川教授らは、これら資料に基づいて、「核融合研究事始め」と題する解説を「核融合研究」誌に発表しました。研究者自身の手による核融合研究の歴史分析でした。

核融合アーカイブ室は、公式の組織としての設立は新しいものの、こうした歴史経緯と長年のボランティアベースの活動によりその基礎が築かれて今日に至ったのです。

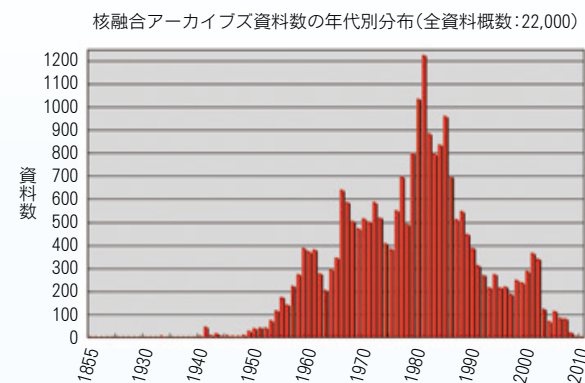


図1 核融合アーカイブ室所蔵資料の発生年代別分布

## どんな資料があるの？

核融合アーカイブ室では、伏見康治(初代名古屋大学プラズマ研究所長)資料、早川幸男資料など、核融合研究において重要な役割を果たしてきた研究者の個人寄贈資料を中心に、収集・保存に努めてきました。文書資料の他にも、主導的な役割を果たした研究者へのインタビュー記録(オーラルヒストリと呼びます)の収集も行っています。アーカイブズのルール(世界標準)に従ってそれらを整理し、資料番号をつけて資料カタログデータベースを作成しています。その数は現在までに22,000件余に上ります。図1に、これらの資料の発生(作成)年別分布を示します。近年の文書が少ななのは、まさに歴史文書としてはこれから収集対象になるからです。これら資料の閲覧を希望する人は、利用規則にしたがって、申請・閲覧することができます。

## よその研究機関にもあるの？

総合研究大学院大学(以下、総研大)は、様々な研究分野における大学共同利用機関を基盤機関とする教育機関ですが、核融合科学研究所もこれに所属しています。総研大基盤機関では、巨額の研究費を必要とするビッグプロジェクトを進めているため、現在および未来社会への説明責任を果たすべく、それぞれの研究機関設立の歴史経緯を資料に基づいて記録しようとの考えが広く認識されるようになりました。こうして2004年、総研大共同研究プロジェクト「大学共同利用機関の歴史とアーカイブズ」がスタートし、これを契機にいくつかの基盤機関で史料室やアーカイブ室が設置されるようになりました。

現在、これら総研大基盤機関の関連空間でネット

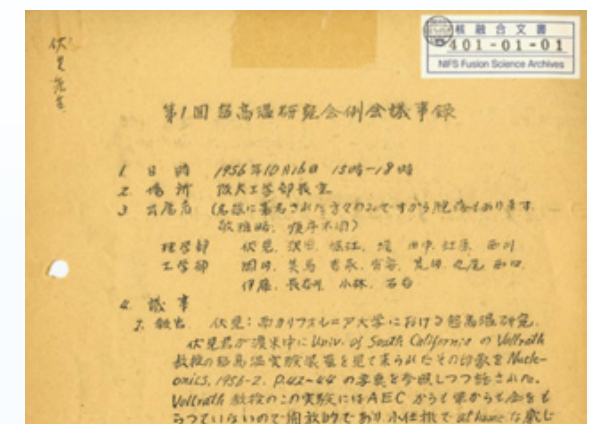


図2 所蔵資料の一例  
(見やすさを考慮し、下半分をカットしています)

ワークを構成することにより、それぞれの機関の所蔵する資料カタログについて横断検索が可能な検索システムを導入し、資料情報共有化データベースの構築とインターネット上での公開を進めています。すでに一部について核融合アーカイブ室のホームページからもアクセスできるようになっています。この検索システムでは、資料カタログ上で、図2に示すような画像による確認もできるようになり、資料を探す上で利便性が向上します。図3は、最近核融合アーカイブ室で開いたネットワーク会合の様子です。このように多くの基盤機関の参加を得て活発な情報交換と連携協力活動が続けられています。

## アーカイブ室のこれから

こうして収集・保存された歴史文書は、研究組織だけでなく個々の研究者にとっても、自らの研究の指針を確立する上で「温故知新」となるものです。近年の公文書の保存に関する社会的関心の高まりにより、2011年4月に「公文書管理法」が施行されました。公的組織における歴史公文書保存の重要性が広く認識されるようになってきたためです。この法律に沿って、研究所の歴史法人文書をどのように保存していくかということも、今後アーカイブ室の取り組むべき大きな課題です。アーカイブズに対する認知度はまだまだ高いとは言えませんが、果たすべき役割の重要性はますます大きくなっています。

(核融合アーカイブ室長/高密度プラズマ物理研究系 准教授)



図3 総研大基盤機関のアーカイブ室合同会合の様子(2012年7月17日)  
参加機関:総合研究大学院大学、高エネルギー加速器研究機構、分子科学研究所、国立天文台、生理学研究所、基礎生物学研究所、国立極地研究所、国立遺伝学研究所、核融合科学研究所